

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400160		
法人名	ウェルエージング株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	栃木県佐野市栃本町3270		
自己評価作成日	令和 元 年 9 月 24 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 1 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、ご入居者様一人ひとりが心安らぐ癒しの場所、穏やかな雰囲気の中で、その人らしい生活が送れるよう個別援助に力を入れております。
ご自宅で出来ていたことを、施設でも継続して行っていただけるよう、一生懸命お手伝いさせていただきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、高速道路のインターチェンジや東武佐野線の駅からのアクセスよく、道の駅や唐沢山城跡などの観光名所にほど近い、自然豊かでありながら利便性に富んだ地域にある。建物は駐車場の奥、幹線道路から一本奥に入った場所に建てており、事業所の近辺は交通量も少なく田畑や古い瓦屋根の住宅などが残る静かな住宅街である。近くには秋山川が流れ、利用者は四季折々の景色を楽しみながらゆったりと安心して散歩などを楽しんでいる。職員は、日頃から利用者とのコミュニケーションをとって大切にしており、朝夕の挨拶も、一日の生活の流れの中で済ませるのではなく、利用者一人ひとりと目線を合わせて交わっている。利用者のその日の様子を把握するとともに、一日の始まりと終わりを笑顔で気持ちよく過ごせるよう心を込めて接している。利用者一人ひとりがやりたいことをやりたい時にできるように、との思いから、日中の活動はタイムスケジュールにとらわれることなく、利用者各々に合わせた支援を提供するよう努めている。併設の小規模多機能型居宅介護施設をはじめ同法人の事業所と協力しながら地域住民にも身近な存在になっている、地域に根ざした温かい家庭的な事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和元年10月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人を尊重しオーダーメイドの介護を基本理念とし、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍らに寄り添う。そんな家庭的で温かな介護ができるよう、申し送りの際等、職員への声掛けを行い実践に向け日々努力している。	職員は、利用者の暮らしの希望を叶えるための手伝いをする、という意識を持ち、日々の業務に当たっている。利用者を受け入れる姿勢を大切にし、思いに寄り添いながら「オーダーメイドの介護」を基本にした理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、町内の行事に参加し交流がもてるよう働きかけをしている。	地域住民に事業所を身近に感じていただけるよう広報紙を回覧して情報発信している。地域行事には積極的に参加している。町内在住だった利用者も多く、以前から地域との繋がりや住民との交流があり、その関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校や短大、専門学校の福祉教育における体験の場として協力、いつでも地域の要請に対応できる様になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者から出た意見等を取り入れ、サービス向上に役立てられるよう努力をしている。	地域を代表する自治会長や民生委員といった人たちの積極的な参加があり、事業所の取り組みや現状について広く知らせる機会となっている。行政の取り組みや地域の課題など、参加者各々の立場から挙がる意見を参考にし、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加をいただき、現状のサービスに対する意見の拝聴や情報交換を行いながら協力関係を築いていけるよう取り組んでいる。	包括支援センター職員を中心に会議等を通じて日頃から情報交換を行い、協力関係を築いている。事務手続きなど相談事などがあれば、市介護保健課担当者に電話やメールで連絡を取り、アドバイスをもらえる良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護推進員研修、身体拘束ゼロへの手引き等を基に研修会、会議等を定期的に行い身体拘束廃止に努めている。	県主催の研修等への参加、社内での体験型や事例発表を取り入れた研修を行い、職員教育に力を入れている。徘徊等がある場合には傍らに寄り添い、行動の理由や利用者の思いに考えを巡らせ、気付きを職員間で共有し、身体拘束をしないケアを念頭に、支援方法の工夫に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員研修等を基に研修会等を行い、虐待防止に努めている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居希望時等に状況に応じ家族へ制度について説明したり、パンフレットをお渡ししたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、重要事項説明書について説明し、ご本人、ご家族様の質問や不安に思っていること等についてお聞きし、ご理解頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先の廊下にご意見箱を設置し、無記名での自由意見も伺えるように努めている。	意見があれば口頭で直接伝えてくれることがほとんどであるが、直接は話しにくい意見等を吸い上げる手段として意見箱を設置している。遠方の家族との月1回の連絡をはじめ、来所した家族への丁寧な声掛け、電話連絡を密に取り合うなど、日頃からコミュニケーションを積極的にとり、どの家族とも話しやすい関係を築くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やミーティング時、または日常の業務の中でその都度職員の意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。	会議や研修の中で意見を表せる機会を設けている。日頃から気付きがあればその都度意見や要望を聴いている。人前で話すことが苦手な職員にはさりげない声かけや話しやすい環境を作るようサポートしながら意見を吸い上げ、職員の提案を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課表にて職員個々の勤務状況等を把握している。また代表者を含む管理者会議を定期的に行い、それぞれが意見を出し合うことにより職場環境が向上できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を基に、職員の状況に合わせた研修を企画。また法人全体の研修会も定期的に行う事により職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開かれる介護関係の研修会などに参加させる等、同業者と交流する機会を作ることにより、サービスの質の向上が図れるよう努めている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や契約等、面談時に様々な情報を収集し、コミュニケーションを図ることにより信頼関係を築き、入居に対して安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や契約等、面談時に様々な情報を収集し、コミュニケーションを図ることにより信頼関係を築き、入居に対して安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況や思いを踏まえ、当施設の支援内容や、他のサービスの案内等を行い、先方様に選んでいただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、家族に準じた間柄でいられるよう信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも相談いただけるような環境、雰囲気作りを行い、本人を共にささえていけるよう信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みのある方々との面会が、心地よいものであるよう環境作りを心がけている。	家族や親戚の他に、近所の人や昔の同僚など顔なじみの来訪や、知人との外出を、家族の許可を得て支援している。来所時にはお茶を準備し、居室でゆっくりと水入らずの時間を過ごせるよう配慮するなど、面会に訪れやすい雰囲気作りにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流を図れるよう、適宜サポートを行っている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了されても、いつでも気軽に相談頂ける様声を掛けさせていただいている。また、亡くなられた際は葬儀への参列を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と利用者様との触れ合いの中で1人1人の思いや意向の把握ができるよう努めている。また、聞き取りが困難な場合でも、できるだけ利用者本位の思いがくみ取れるよう傾聴に努めている。	職員は常に相手を受け入れる姿勢を持って利用者と接し、利用者から声がかかればゆっくりと傾聴するように努めている。言葉でわからない場合は、表情や行動からも思いや意向の把握に努め、その真意を慮り、利用者が希望する生活が送れるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床や食事時間など、できるだけご本人の生活習慣に合わせられるよう努めている。レクリエーションは強制ではなく、ご本人の状態等に合わせて個別の趣味活動が行えるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り時、またはミーティング等にて日々の状態把握、情報共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やミーティング等で職員の意見を聞くとともにご家族の面開示や電話等にて意見や要望をお伺いし、介護計画に反映させている。	毎月のモニタリングと、半年から一年での見直しを基本に介護計画を作成している。家族に毎月、請求書送付時に利用者の様子を伝え、それを基に出される意見や希望を聞き、介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや伝達ノートを活用し、入居者の現状を把握するとともに介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族遠方のため、入居者と関わる時間が取れない場合等、施設側にて通院介助や内服薬の購入等の援助を行っている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、入居者様個々の家庭行事(法事等)にも参加できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医受診時は職員が同行して報告、相談を行っている。ご家族が行く場合は、普段の様子等を記録したものをお渡しし、診察の参考にしていただいている。	入所前からのかかりつけ医の受診を継続支援している。基本は家族が通院介助を行うが、認知症が重い、移動が困難など、家族だけでは不安な場合は看護師が同行し、遠方や独居などで家族の支援が困難な場合は職員が同行するなど、臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等あれば看護師に報告し、必要に応じ主治医に連絡を取り適切な受診ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院の看護師や相談員との連絡やサマリーの交換、面談等により連携を図っている。入院時にも病棟へ伺い情報収集を行う等、入退院がスムーズにできるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医やご家族と連絡を密に行い、施設でできることを十分説明し、医療機関と連携を図り、施設でのケアが継続できるよう努めている。	家族の要望に応じ看取りまで行っている。事業所でできることを説明し、主治医、家族と話し合い、希望に添えるよう取り組んでいる。看取りも視野に入れ個人で在宅医療を契約している利用者もいる。数名の看護師が常駐する強みを活かし、最期まで利用者や家族の思いに寄り添った支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置に伴い、救命講習等に定期的に参加する等、急変や事故発生時に実践力を発揮できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。運営委員会の際等、民生委員や町内会長に参加して頂いている。	日中・夜間想定避難訓練を行っている。飲料水はウォーターサーバーを利用し、食料の備蓄は常時入れ替えしながら管理している。運営推進委員会で話題に取り上げ、大災害時に地域全体で協力できるよう、緊急時の情報共有方法や取り組みについて、日頃から話し合っている。	個別ケアにより利用者各々の様子を把握したところ、日中と夜間とでは利用者の状態や様子に違いがあることがわかっている。訓練の際それら昼夜の情報を踏まえて行うことで、避難訓練の質が一層向上することが期待される。

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境や現在の身体状況を把握し、その人に合った声掛けや傾聴ができるよう心がけている。	身体の変えなどにより、利用者ができる意識であることが現実にはできない場合でも、本人の考えや思いを否定せず、自尊心が傷つかないよう対応している。看護師が毎日の身体状況を確認した上で、性格や日々の状態の違いを考慮した声かけやサポートを心掛け、一人ひとりを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う際は必ず本人に確認を行い、「はい」「いいえ」で答えられる等自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人のペースで生活していただけるよう就寝、起床、食事時間等柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の出張理美容を利用したり、思い入れのある衣類を着てもらったりと支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや味付けを把握し、おいしく食べていただけるよう心がけている。職員も一緒にテーブルで食事を摂り、好みの把握等を行っている。	旬の食材や利用者の好みを考慮し、畑で収穫した作物や近所からのお裾分けの野菜等を取り入れて調理し、職員と利用者が共に食卓を囲んでいる。筍の皮むきや食器洗い、おやつ作りなどを、利用者も残存機能を活かしながら一緒に行っている。作業が困難な利用者も、調理方法の提案やアドバイスなど会話で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時に摂取量の記録を行い、摂取状況の把握に努めている。また、好みに合わせて水分補給ができるよう、コーヒーや日本茶等数種類飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後状況に合わせて、うがいや歯磨きの支援を行い確認表にチェックを行っている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を日誌に記録することで排泄パターンを把握し、できるだけ本人の行動を確認しトイレ誘導する配慮を心がけている。	排泄記録や行動パターンから、利用者各々のタイミングに合わせた声かけや誘導をしている。リハビリパンツやパットを適切に使いながら、夜間や病後でも一人ひとりの体調や身体状況に合わせたサポートをすることで、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状況に合わせて、朝は牛乳やヨーグルトを提供したり、個々に体操や散歩を促したり等取り組んで切る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や要望等、希望に沿った入浴が行えるよう順番や曜日等を配慮している。	3日に1回を目安に、同性介助や時間など希望に合わせた入浴ができるよう支援している。ゆず湯など季節を味わえる工夫や、拒否のある場合にも日時を調節し声かけの工夫をすることで、無理強いないで各々のタイミングで気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて休息や就寝ができるよう支援している。眠れない場合は会話を傾聴する等、安心感を持っていただき、暖かい飲み物を提供する等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイリングしており、いつでも確認できるようにしている。看護師が準備したものを介護士が確認することで誤薬等にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たたみ等無理なくできることを行っていたり、音楽や手芸等好きなことが行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調等をみながら近隣への散歩や外出ドライブ等を行っている。	近隣の散歩やおやつや買い物の買い物、家族との外食などに出かけている。春や秋には花見や紅葉狩りなど、利用者の馴染みの場所や観光名所へ希望者を連れて出かけている。頻繁な遠出はできていないが、出かけた際は写真を撮り、皆が見ることができるようリビングに掲示して外出の思い出を振り返ったり、家族の来所時に話題にしたり、外出について後々まで楽しんでいる。	

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にてお金をお預かりし、外出時や希望時等買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はいらっしゃらないが、希望時は施設の電話をご利用いただいている。必要に応じ職員が伝言をさせていただくなどの支援も行っている。手紙等も自由にやりとりができるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけるよう、掲示物の工夫や本人の描いた絵の飾りつけ等を行っている。換気や空調、照明等、状況に合わせて適宜調整している。	一人ひとりの様子を見て、気候や体感温度等を考慮し、その都度空調の調整や座席の配置換えを行い、各々が心地よく過ごせるよう配慮している。中庭に面したリビングや廊下は自然光が差し込み、リビングには季節の飾りや利用者の作品、行事や外出の写真を掲示し、明るい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングからはベランダ、中庭へ出入りでき、また畳のスペースでくつろいだり、玄関先でも座って休めるよう椅子を配置する等配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	標準設置のエアコン以外はすべて持ち込み可能で、入居者思い思いの家具や生活用品をお持ち込みいただいている。	食器や衣類、寝具などの日用品、筆筒やベッドなどの家具は、使い慣れた物を自由に持ち込むことによって、以前の生活環境に近い室内作りができるよう支援している。好みの飾りや写真、手作りの賞状などを飾ることで居心地のいい部屋作りができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具の活用や、トイレ、浴室、廊下等には手すりを設置し安全に移動できるよう配慮している。		